

第1回大崎圏域宿泊事業者部会

【日時】令和7年6月11日（水）午後2時から3時40分まで

【場所】大崎市鳴子公民館 ホール

【委員からの主な意見】

（委員1）

- 最初に、宿泊税活用事業における市町村交付金の予定や、大崎市への配分額について。
- 宿泊税は無駄にせず、用途を宿泊客へ明確に説明できるような活用をお願いしたい。

（委員2）

- （資料の）以前示されていた宿泊税収入の施策1から施策4への配分イメージを各委員に共有された方が良いと思う。確か戦略1には、市町村交付金が含まれていたと思うが。
- インバウンド戦略について、鳴子温泉では「インバウンドが少なくて良かった（良い）」という国内客の声もあり、集客をインバウンドに特化することは、この前のコロナパンデミックのような場合、リスクを伴う。県としてインバウンドに注力することは良いが、地域の実情に応じてはインバウンドの集客を制限することも検討すべきではないか。

（委員3）

- 他の委員とは別な視点で意見を言えば、宿泊税を財源とした用途については、地域ごとに分配するのではなく、宮城県としての大きな視点で活用すべきではないか。広域交通や仙台空港関連の様々な取組、個々の旅館組合などではできないような大規模な施策の財源（一部として使うことも含め）としてこそ活用すべき。

（委員4）

- 当地域の観光の目玉となっている菜の花畑の整備など、誘客のための環境整備活動には多大な手間と費用がかかる。人手を補う支援があれば良いが、これらの活動を継続していくための資金的な支援、負担を軽減する支援も検討してもらいたい。
- アクティビティ事業には業界団体の講習受講や資格取得などに資金と時間を要するので、事業者の人材育成などへのスタートアップ支援があれば良い。
- 川渡から中山平や鬼首までを1、2時間で周遊するバスなどの交通手段や、宿泊客が旅館を出て街歩きをするきっかけとなる施策があれば、宿泊施設の外を回る客が増え、賑わいにもつながる。また、（長期滞在客の外遊は）宿泊事業者の経費節減にもつながる。

（委員5）

- 切り口として、県全体の広域、市町村、事業者単位毎にアイデアが出せれば良いと思う。最初に、納税者（観光客等）還元のため、仙台空港・仙台駅等での情報発信を強化してほしい。デジタルに加え、手に取れる紙媒体での案内も欲しい。また、大崎圏域の周遊を促すため、季節のテーマ（花、雪など）を盛り込んだガイドブックを作成し、国内外の観光客にアピールしてはどうか。

- 自然ツアーやエコツーリズムなどの専門ガイドは、需要が見込みにくい市町村単位ではなく、圏域単位で養成し、必要な時に利用できる体制を整えたらどうか。
- 二次交通は、周遊バスに加え、スマホでタクシーを呼べるサービスも有効だ。地域の事業者との連携が考えられる。こういったことは、市町村や事業者の単位での取組を出し合いながら議論できれば良い。

（委員 6）

- 今後の宿泊需要を考えるとインバウンドは不可欠であり、宮城・大崎にはまだ伸びしろがある。ピンポイントで有効な取組として、ドラマのロケ地誘致（鳴子温泉など）のように個人では難しい施策も、県や広域で取り組むべきではないか。一方で、オーバーツーリズムによる生活環境への影響も考慮する必要がある。納税者だけではなく、地域住民にも還元する施策を進め、理解を得ることが必要と思う。
- 二次交通の確保は各地の課題となっている。デマンドタクシーや町民バスは土日祝日が運休となるので、宿泊税を活用して土日祝の交通手段を補うなど、観光客の周遊と住民の利便性を両立する施策は、地域の理解も得やすいだろう。

（委員 7）

- 施策の精度を高めるため、県のデータ収集をより強化すべきではないか。年代・性別など、ターゲットを絞り込めるきめ細かいデータをもっと収集することが必要と思う。また、データを真に生かすためには、ターゲットとなる世代や性別の当事者を（このような）議論の場に加え、多様な意見を取り入れることも必要ではないか。宿泊だけではなく、この地域や県全体を訪れた人へのアンケート調査ができれば良いのではないか。

（委員 8）

- 昨年大雨で不通となっている陸羽東線について、代行バスは運行されているものの、観光客や地元住民の通院などでは、（運行時間帯で）どうしても不便が残る。ＪＲ社に要請するなど、何とかしていただきたい。

（委員 9）

- 不通が続く陸羽東線は、復旧の目処が立たず非常に困っている。山形県新庄市が人気漫画家の出身地で、鳴子から新庄に行きたいという台湾観光客も最近いて陸羽東線の復旧は（改めて）必要だと思ったが、将来インバウンドへの期待は大きいので、県もインバウンドは進めて欲しい。
- 昨年立ち上げた「鳴子温泉郷 持続可能なマネジメント専門委員会」及び３部会の運営費に、宿泊税を充当できるか伺いたい。また、ビジョン部会では、“いかに鳴子を売り出すか”を検討するが、そのキーワードとして“現代の湯治の実現”“長期滞在の温泉地”“健康と癒しの提供”があるが、例えば、これまで活用されてこなかった湯沼への遊歩道整備を考えてもらえないか。新たなトレッキングコースとして、長期滞在の魅力向上につながると思う。

(委員 5)

- 地産地消の観点から、飲食店が地元の良い米を安価で提供できるよう、宿泊税で仕入れ価格の差額を補助してはどうか。
- 加美町を含め大崎地域にある酒蔵のアピールも、もっと強化できないかと考える。
- 冬期の安全確保のため、除雪の徹底やロードヒーティングの検討など、冬道対策の強化もお願いしたい。

(委員 1)

- (資料にある) 施策毎の意見として、施策 1 の遊歩道に関連して、鳴子峡の景観整備を検討できないか。施策 2 の二次交通に関しては、仙台空港からの送客面を考えると、陸羽東線の復旧を望む。また、土日祝日のみとなった高速バスは、営業上の判断とはいえ、平日運行の再開を目指したいし、そのためには観光客に利用してもらうことが不可欠。施策 4 の魅力向上策として、夜の街歩きや SNS 映えするフォトスポットの増設、プロジェクションマッピング、アート作品の設置、圏域スタンプラリーなどが考えられる。

(委員 2)

- 高速バスが土日祝日のみの運行となり、平日夕方にバスが無いことに気づかないことや月曜日に帰れないなど宿泊客が実際に困っているため、(観光客等の増加のため) 仙台からの誘客対策には力を入れてほしい。
- 県には各圏域に足を運んでもらうなどし、会議に出席できない各施設の声を丁寧に拾っていただきたい。
- 他の委員からも意見があったが、各地の多くの魅力があるため、その魅力を生かし、全体で連携した取り組みを行う必要がある。